



つむぐ

浜松市教育研究会
研修主任研究部
研修だより No. 2
令和7年 8月29日

8月5日(火)に、浜北文化センターにて、本年度2回目の研修主任研修会が行われました。今回の研修会では、初めに、野秋愛美教育長より講話をいただきました。その後、グループ協議を行いました。以下、顧問校長挨拶、教育長講話の概要、グループ研修の様子、顧問校長による研修のまとめについて報告いたします。

【顧問校長挨拶】 白脇小学校 神宏之校長

教育界で頻繁に使われる教育用語が現場の教員には十分に浸透していない現状がある。言葉の表面だけでなく、その背景や目的、ねらいなどの本質を正しく理解することが重要である。各校の研修は、その学校の子供たちに必要な指導は何かを共通理解して進め、授業実践力を高められるもの、教員が「やってよかった」と思えるような実りあるものにしてほしい。

教育長講話 「研修主任に期待すること」

野秋教育長から、教育や教員への思い、第4次浜松市総合教育計画の重点、研修主任に期待することについて講話をいただきました。教職の魅力ややりがい、校内研修に求められるものを再認識でき、研修をリードしていく上での自信や勇気をいただく貴重な機会となりました。



【教育長としての思い:教職の魅力、学校教育の価値】

「教員って面白い」「真の教育はこどもと接するところにのみ存在する」

「教員という仕事は面白い。大変さや苦しさも含めて、面白い。」これが、教育長が教職経験から得た思いである。目の前には多様な課題を抱えた子供たちがいるが、教職のおもしろさは、思い通りには成長しない子供と向き合い、奮闘することにある。そして、学校教育の魅力は、子供の成長のために奮闘する教員がいること、教員の働き掛けによって子供が輝くことにある。「真の教育は子供と接するところにのみ存在する」という信念をもっており、子供に最も影響力があるのは日々の授業を行う教員であると考え。教育長として、教育行政の立場から、教員一人一人が自身の強みを生かし、働き甲斐を感じられるよう支援していく。各教員には、大変さや苦しさを乗り越え、自分で教職のおもしろさを見付け、それを後輩に伝えてほしい。

【第4次浜松市教育総合計画について】

「周知のため、全職員が理解を深める場を設定しよう」

「描く夢や未来の実現」を基本理念に掲げ、「主体性」「多様性・包摂性」「信頼・協働」の3つのコンセプトの基、目指すこどもの姿、それを支える教職員の姿が下記のように示されている。

【目指すこどもの姿】

自分らしさを大切にするこども
他者と協働し、主体的に行動できるこども
自己調整しながら、粘り強く取り組むこども

【目指す教職員の姿】

こどもの自分らしさを受け止める教職員
愛情と情熱、規範意識を持ち続ける教職員
専門性と指導力を磨き続ける教職員

特に、「こどもの自分らしさを受け止める教職員」とはどのような姿なのか、各校で話し合い、共通認識をもつことが重要である。また、研修の場を設け、リーフレットを活用して、計画の趣旨や具体的な内容の周知を進めてほしい。

【研修主任への期待、校内研修のあり方】

研修は教員の主体性の発揮と育成の場であり、その推進力は教員同士の対話にある
各教員が「学びたいことを」「学びたい方法で」「学びたい時間に」学ぶ研修を目指してほしい

研修主任には、肩の力を抜いて取り組み、各教員が「学びたいことを」「学び方法で」「学びたい時間に」学ぶ研修を目指してほしい。VUCA の時代に必要な力を育むためには、子供自身が内発的動機に基づき、自分で課題を設定し、自らの判断で学ぶ方法を選択する「自律的、探究的な学び」が求められる。浜松市教育センターでは、この学びを「試行錯誤しながら自律的に学ぶ」と表現している。子供たちに求めるのであれば、教員自身も「試行錯誤しながら自律的に学ぶ」必要がある。そのため、校内研修で扱うテーマは、教科指導だけでなく、学級経営、ICT 活用、いじめ・不登校対策、学校行事、保護者連携など、教員が自身の指導力を伸ばしたいと思う多様な分野に広げていくべきである。校内研修の場は、各自が内容、方法、時間を選択して進めた学びを報告し合い、助言し合う「対話の場」とであるとよい。研修主任が各校の教員の「心に灯をつける」存在となり、浜松市全体の教員の資質向上につながることを期待している。

グループ研修

- ① 教育長の講話を受けての意見交換
- ② ワークショップ「授業の質を上げるには」
- ③ ワークショップの共有

グループ研修では、教育長の講話を広げ、成し遂げるために必要な研修について活発に意見を出し合ったり、授業の質を上げるための校内研修の在り方について KJ 法を用いて協議したりする主体的な姿が見られました。以下、グループ研修で出された意見や様子を紹介します。

【教育長講話を受けて】

- ・ 第4次浜松市総合教育計画について共通理解を図る研修の場を2学期に設けたい。
- ・ 教員同士の対話を重視し、「学び方を学ぶ」ことを意識した研修を行いたい。
- ・ 教員のニーズを吸い上げ、各自型と選択型から決定していく研修も考えられる。
- ・ 研修を各教員に委ねるためには、学びに向かう基礎固めが、子供にも教員にも必要である。
- ・ 経験年数や力量に差があるため、研修をすべて委ねることに難しさがある。校内版浜松教師塾、校内の教員を講師した研修、選択研修などできることから取り組んでいきたい。



【研修のまとめ】 南部中学校 御手洗実校長

教育長講話に勇気づけられた人が多かったのではないかな。悪戦苦闘の先に希望を見る教職のおもしろさを改めて確認できた。また、教育長が示唆された研修の在り方は、研修主任の悩み解決の一つであり、本研修は研修改革のターニングポイントになり得る研修であった。ワークショップでの「子供や教員の底力を信じる」という言葉が印象的であった。研修主任は、課題意識を抱えながらも前進していく教員の底力を信じて、緩やかに包み、方向性を示していくとよい。

本研修は、研修主任として研修をリードしていく原動力を得る充実した研修となりました。また、主体的に研修に参加する先生方の姿から、本研修部の研修の意義を再確認することができました。今後も有意義な研修となるよう尽力して参ります。御協力よろしくお願いいたします。

(文責 芳川北小 池内 桃恵)